



......................... 2026 年度 特別展

大カエル展

第 44 回特別展 解説書

和歌山県立自然博物館

はじめに

このたびは和歌山県立自然博物館の第44回特別展解説書をお手にいただき、誠にありがとうございます。

今回の特別展のテーマはカエルです。カエルは日本全国で身近な生き物であり、昔から親しまれてきました。皆様は“カエル”というと、どのような姿を想像するでしょうか？田んぼで見られる緑色のアマガエル、茶色のヌマガエル、あるいは昔話にもよく登場するヒキガエル（ガマガエル）を思い浮かべる方もおられるかもしれません。

2026年4月時点で日本には54種・亜種のカエルが分布し、その姿かたち、そして生活史は多様性に満ちています。大きさは体長3～20cm、地上にすむカエルから木の上にすむカエル、卵を産む場所も地中から樹上まで様々で、子育てするカエルもいます。皆様が想像したかもしれないアマガエルは日本だけで3種、ヌマガエルも2種、ヒキガエルはなんと5種が分布します。このように、身近にいるカエルでもとても多様です。

本書は身近に見られるカエルから普段見ることのできない希少なカエルまで、日本のカエル類全種を紹介しています。ぜひ、じっくりとご覧ください。

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
両生類ってどんな生き物・・・・・・・・	2
カエルってどんな生き物・・・・・・・・	3
日本のカエル・・・・・・・・	4
新種のカエルたち～カエルの分類学研究最前線～	18
外来のカエル・・・・・・・・	19
カエルの標本の作り方・・・・・・・・	21
カエルに迫る危機・・・・・・・・	22
おわりに・・・・・・・・	25
謝辞・・・・・・・・	25
参考文献・・・・・・・・	26

両生類ってどんな生き物？

両生類は魚類から進化した原始的な脊椎動物です。両生類の多くは、幼生（オタマジャクシ）のときに水中で生活し、大きくなると変態して体の形が大きく変わり、上陸します。有尾目、無尾目、無足目の3グループに分かれ、合わせて9000種以上が世界中に分布しています。

有尾目（サンショウウオ目）

尾のある両生類で、北半球全域と南半球の一部に800種ほどが分布しています。両生類で最も大きい種であるオオサンショウウオ類や、後足のないサイレン類、樹上生活するキノボリサンショウウオ類など形態・生態は多様で、これら全種が昆虫類や魚類を食べる肉食性です。基本的に卵から幼生（オタマジャクシ）が生まれ、手足が生えて上陸し、成長して成体となります。しかし、例外も多く、幼体を産む胎生の種や、卵の中でオタマジャクシが育ち、幼体の姿で生まれてくる直達発生の種もいます。

日本には約60種が知られ、ほとんどが日本固有種です。オオサンショウウオ類を除く全てが20cm以下の小型の種です。和歌山県にはアカハライモリなど6種が分布します。



無足目（アシナシイモリ目）

足の無い両生類で、世界の熱帯各地に240種ほどが分布しています。ミミズのような見た目をし、地中や水中で生活します。全種が昆虫類やミミズ類を食べる肉食性です。胎生の種と卵生の種が知られ、胎生の種は幼体を産み、卵生の種は産んだ卵をメスが守ることもあります。

日本には分布していません。



脊椎動物

背骨をもつ動物のことです。ほ乳類、鳥類、は虫類、両生類、魚類が含まれます。

ニホンヒキガエル

Bufo japonicus
Temminck et Schlegel, 1838

分布

本州、四国、九州と周辺離島。東京や仙台では国内外来



ヒキガエルの仲間。大型のカエルで、鼓膜はアズマヒキガエルより小さいです。地上で生活します。2～4月に池や水たまりにヒモ状の卵塊を産みます。

ニホンアマガエル

Dryophytes japonicus
(Günther, 1859)

分布

本州、四国、九州と周辺離島、朝鮮半島、中国、ロシア



アマガエルの仲間。小型のカエルで、指先に吸ばんを持ちます。水田でよく見られ、4～7月に繁殖します。

ヒガシニホンアマガエル

Dryophytes leopardus
Shimada et Matsui, 2025

分布

北海道、本州と周辺離島、樺太



アマガエル仲間。足のヒョウ柄模様が特徴ですが、模様のないものもあり、近畿ではニホンアマガエルと見分けることができません。

エゾアカガエル

Rana pirica Matsui, 1991

分布

北海道と周辺離島、樺太



アカガエルの仲間。後足は短めで、ころっとした体型をしています。4～7月に浅い水場でゼリー状の卵塊を産みます。

オキタゴガエル

Rana okiensis Daito, 1969

分布

隠岐諸島



アカガエルの仲間。隠岐諸島の2つの島にのみ生息します。タゴガエルより鼻先が丸いです。地上で生活し、2～3月に伏流水中で繁殖します。

ゴトウタゴガエル

Rana matsuii
Eto et Matsui, 2023

分布

五島列島



アカガエルの仲間。五島列島の5つの島に生息します。タゴガエルより手足が長いのが特徴です。地上で生活し、10～2月に伏流水中で繁殖します。

タゴガエル

Rana tagoi Okada, 1928

分布

本州、四国、九州と周辺離島



アカガエルの仲間。手足が短く、ころっとした体型をしています。12～6月に伏流水中で繁殖します。「タゴ」は両生類研究者の田子勝弥氏に由来します。

チョウセンヤマアカガエル

Rana uenoi Matsui, 2014

分布

対馬、朝鮮半島



アカガエルの仲間。大型で、手足は長いです。地上で生活し、2～4月に浅い水場で繁殖します。個体数は少なく、野外で見つけるのは難しいです。

ツシマアカガエル

Rana tsushimensis
Stejneger, 1907

分布

対馬



アカガエルの仲間。対馬の固有種です。個体数は多く、沿岸から山地まで生息し、1～4月に浅い水場で繁殖します。

ナガレタゴガエル

Rana sakuraii
Matsui et Matsui, 1990

分布

本州



アカガエルの仲間。タゴガエルに似ていますが、水かきがより発達します。『ながれ』の名前の通り、溪流中で産卵します。



Topics
#2

見つけるのが最も難しいカエル？

チョウセンヤマアカガエルは日本で見つけるのが最も難しいカエルの一つです。国内では長崎県対馬にしか分布しておらず、繁殖期以外は山の中で生活するため、なかなか見つかりません。数も減ってきていて、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類に選定されています。



どきどきのカエルがいるかを調べる



カエルたちを守るためにまず必要なことは、今どこに何の種がどのくらいいるのか把握することです。データが多く集まってくれば、今後の個体数の増減や分布域の拡大・縮小を予測でき、効果的な保全対策をとることができます。また、カエルの好む環境が詳しくわかれば、今まで知られていない新たな生息地を見つける手掛かりになります。

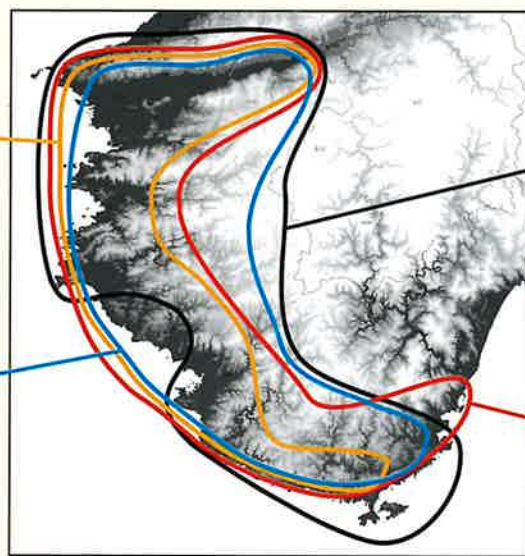
当館では和歌山県内全域にわたって、カエル類各種の分布を調べています。希少種はもちろん、外来種も調べることで、全種の動向を追っています。



ウシガエル



カジカガエル



和歌山県立自然博物館収蔵標本に基づく
各種の分布範囲



ヒキガエル属



ノナサマガエル



大きなヒメタゴガエル、 小さなヒメタゴガエル

ヒメタゴガエルはタゴガエルのいない地域では大きく、タゴガエルのいる地域では小さくなるのが知られています。これはエサの奪い合いなどを避け、2種類が同じ場所で生活できるようにするためです。このように同じ種類で姿形が変わる現象を「形質置換」といいます。



和歌山県レッドデータブック 2022

2022年に和歌山県が発行した、和歌山県で絶滅のおそれのある野生生物をまとめた本です。絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類といった、絶滅の可能性の高さに合わせたランクがつけられています。

カエルを守る



近年、日本全国でカエルたちを守る活動が活発に行われています。和歌山県でも孟子ビオトープ（海南市）のニホンアカガエル保全活動や、和歌山県立田辺中学校・高等学校のアフリカツメガエル駆除活動（田辺市）など、カエルたちのために活動を行っている団体があります。

私たちはカエルを守るために、どのようなことができるのでしょうか？団体での活動はハードルが高い面もありますが、一人の力でもできることはたくさんあります。外来種が定着するのを防ぐためにペットを逃がさない、カエルの住む川や池の水を減らさないようにするために水道水の使用を抑えるといった小さなことから、身近な自然の調査をする、庭にビオトープをつくるといったことまで。ぜひ、あなたの力でカエルの未来を守ってみませんか？



（左）ビオトープ孟子。希少種を含めたカエル類の保全が行われている。



（右）田辺市鳥ノ巣半島でのアフリカツメガエルの駆除活動。近年はツメガエルの生息が確認されていない。



和歌山県のヒキガエル

和歌山県にはニホン、アズマ、ナガレヒキガエルの3種が分布しています。3種は自然に交雑していて、県内各地で交雑個体が見つかります。交雑個体は2種類の間違った見た目をしていることもありますが、遺伝子を見ないとわからないことも多いです。

